

①UW System Office of the Gender and Women's Studies Librarian (GWSL) は、研究資金と研究資料の両方からジェンダー、女性学、LGBTQ+研究をサポートしています。助成金の提供、書誌情報の収集、カリキュラムサポート、組織間のコーディネートなどをしています。

図書館としての機能や情報提供サービスは、地域やコミュニティのエンパワーメントにつながると思われています。地域・国際的なパートナーシップを通じて、世界中の女性の生活をよりよくするため、研究活動を行う方たちに、必要なリソース・スキル・サポートの提供を目指しています。

利用時間はコロナの影響で、9月8日から12月23日の間は月曜一金曜：9a.m.-5p.m.の開室予定です。

GWSLは購読可能なレビュージャーナルを1冊発行しています。そのほかSPEAKING OUT: WOMEN, POVERTY, AND PUBLIC POLICY、WOMEN, RACE AND ETHNICITY: A BIBLIOGRAPHYなども出版しています。



図書館HP

②Gender and Sexuality Campus Centerは1992年に設立され、2013年秋に学生自治会長室として10周年を迎えました。何度か名称を変更し、2018年5月にLGBTキャンパスセンターから現在の名称に変えました。キャンパスの環境を改善するために、教育、アウトリーチ、アドボカシー、リソースを提供しています。

附属図書館ジェンダー&セクシュアリティ・キャンパスセンター・ライブラリー (The Gender and Sexuality Campus Center Library) は、UW Librariesシステムの一部です。WiscCardを使って、LGBTQのアイデンティティ、生活、健康に関する本やDVDの検索・閲覧・貸出ができます。

- ・クィア小説、伝記、回顧録、グラフィックノベル
- ・LGBTQ研究とジェンダー研究
- ・バイセクシャル、宗教、国際的視点、歴史、教育に関するセクション
- ・障害とクィアネス、非一夫多妻制、非モノセクシャル、アセクシャルに関するリソースバインダー
- ・DVD、人気映画、テレビシリーズ、ドキュメンタリーなど



世界の女性・ジェンダー図書館めぐり 紹介ポスターシリーズ第10弾

ウィスコンシン大学マディソン校図書館

UWM図書館は、計32個の附属図書館及びサービスセンターによって構成されています。年間400万人が利用しています。

写真、音声、ポスターなど、ウィスコンシンの歴史と人文系の研究に関するデジタルコレクションが数多くあります。The James W. Jones Gay and Lesbian Literature Collectionというゲイとレズビアン文学のコレクションがあり、女性学及び女性史の資料収集も行っています。各図書館では、資料の展示や閲覧サービスが行われています。

そのうち、上記①のGWSLでは、図書館の案内やジェンダーに関する研究調査のレファレンスを行っています。②のGSCCは、自らのジェンダー・アイデンティティ、あるいはカミングアウトについて疑問や不安を持っている学生の話の聞き、サポートを行っています。